

赤坂アカデミー通信

NO 3

赤坂中コーディネーター 菅谷

秋も一段と深まり、朝夕の寒気が身にしみるところとなりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日はお忙しい中、赤坂中学校のアカデミー研究授業にお越し頂きありがとうございました。学校選択制の港区で幼・小・中の連携を継続して続けていくのはとても大変なことだと思いますが、赤坂の子供たちのためにも幼・小・中がしっかりと連携していくことが大切だと思っています。これからもよろしくお祈りします。

I 第2回アカデミー研究授業記録

授業者：赤坂中学校 北原延晃 主任教諭 教科：英語 世界で活躍する真の国際人の育成

II 質疑応答【当日、回答できなかったもの】

Q：4年後のオリンピック・パラリンピックに向けて、子供たちにどんな力をつけていますか。

A：外国人と臆せず積極的に話せる態度。そのための発音。「書ける」力の前に「話せる」力をまずつける。語彙を増やす。(指導要領では1200語だが、本校生徒の語彙数は平均2900語)日本文化を伝えることができるように3年2学期から毎時間帯活動で日本文化紹介の練習をし、11月にスピーキングテストをしている。

Q：毎年英語劇を見ていて、準備や練習が大変な中、高い成果をあげていますが、指導者は先生の他にいますか。また、生徒が自主的に作り上げていくコツは？

A：私自身が学生時代に英語劇をやっていて、教師になってからもずっと劇(日本語・英語)の指導をしてきている。昨年も今年も私は2つの学年の劇(3年の英語劇と1年の日本語劇)を掛け持ちしているので、それぞれの学年に「演出」「舞台監督」の2人を最も信頼できる生徒にやってもらっている。「演出」は役者全般、「舞台監督」は舞台設計全般に責任を持つ。私とNTのJoelはときどきしか指導できない。

Q：NTとの授業はどのように行っているか。先生が行う場面とNTが行う場面の分け方が知りたいです。

A：私と講師の先生で1週間おきにNTとのTTがある。NTの役割をあらかじめ決めている。たとえば、絵を使ったQ&A、本文の口頭導入、各種音読のリード役など。他に生徒が疑問に思うようなことからNTにその場で質問する。

Q：発音がキレイな秘密について知りたい。

A：発音は中高くらいまでで決まり、大人になってから直るものではない。だから中学英語教師最大の使命は正しい発音を身につけさせることにあると考えている。入学当初から日本語にないf、v、th、r、lの音を徹底的に鍛える。授業中に合格できなければ昼休み、放課後、翌日朝というぐあいにできるまでやる。発表活動の際も発音が悪ければやり直しをさせる。学期に1回は音読テスト(発音テスト)をする。全学年で毎時間英語の歌を歌っている。

Q：先生の中で「自発的」とはどこまでできたら、自発と捉えているのか。(自分で考え、自分の言葉で自分から発言できた姿でしょうか。応用力?)

A：禅問答のような問いですね。自発とは生徒が知的好奇心を持って「知りたい」「学びたい」という気持ちになること。そうなるようなしなかけを授業の随所に作っている。(辞書、発問など)

Q：内容がわかるようなジェスチャーとは？ジェスチャーにあらわしづらいものもあるが in.on.by.with などの言葉（英語）の概念を体得するためか？

A：内容語をジェスチャーします。前置詞など機能語はしません。ジェスチャーを英語教育に取り入れたのは日本で私が最初です。日本語を使わずに英語を理解、発表するためです。

Q：幼稚園には様々な国籍の幼児もいます。まだ日本語を十分に習得していない幼児にとって、主の言語は「日本語」で、それを人とのかかわりの中で、必要感を感じながら話せるようになってほしいと思っています。そのなかで、英語を含む外国の言語をどうとらえて取り入れていくと良いと思いますか。中学校の立場から教えていただきたいとおもいます。

A：私が外国語大学の出身です。部活動の仲間にはさまざまな言語を学んでいる人がいました。英語に限らず、「よその国の言葉っておもしろい」という興味を育てていきたいです。たとえば給食にリンゴが出てきたら「あなたの国の言葉でリンゴってなんていうの？」と聞いてみて、「アップル」と返ってきたら、みんなで言うなど、先生がまず先に興味を持つことが大事でしょう。

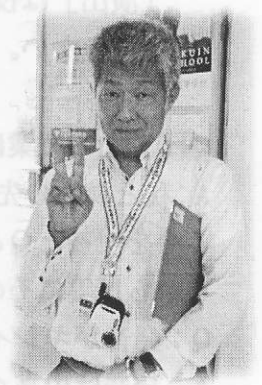
※たくさんの質問ありがとうございました。なお、当日の研究授業、質疑応答で解決しているものに関しては割愛させて頂きましたのでご理解のほどお願い致します。



授業前、みんなで集まり英語の話をしたり、真剣に授業に取り組んでくれた3年生でした。

III 次回に向けて

今回の研究協議では突然のグループ分けにご協力いただきありがとうございました。学びの継続ということで、昨年度に引き続き英語科の研究授業にさせて頂きました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、赤坂アカデミーで学ぶ幼児・児童・生徒が様々な場面で活躍する。そんなアカデミーであつたら良いと思っています。その為にも、幼・小・中が子供たちの情報や学習の取り組み方などを、今よりもしっかりと連携をとっていくことが必要だと思っています。子供たちのために、よりよいアカデミーをつくっていきましょう。



IV 次回の赤坂アカデミー合同研究会

中之町幼稚園 日時：11月4日（金） 14：00～

V 赤坂アカデミーリーフレット作成について

今年度、港区ではアカデミーにおける幼・小中一貫教育の推進の活動として、各アカデミーごとにリーフレットを作成しています。このリーフレットは最終的に港区のHPに掲載されます。赤坂アカデミーのリーフレットは子供たちがいきいきと活動している姿などの写真を中心としたリーフレットを作成中で写真の掲載の確認などを今一度お願い致します。